

KOBELCO

人と地球の未来を考える
コベルコ建機グループ

社会環境報告書 2017

コベルコ建機株式会社



トップメッセージ



新たな価値の創造で 社会に貢献し ともに成長を目指す

コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

櫛木 一秀
Kazuhide Naraki

新生コベルコ建機、さらなる強い事業体へ

2016年4月1日、コベルコ建機株式会社(ショベル事業)とコベルコクレーン株式会社(クレーン事業)が経営統合し、新たなコベルコ建機株式会社が誕生してから1年が経ちました。経営の効率化、商品開発力の強化、グローバル展開の加速といった経営統合による効果を最大限に発揮するため、組織体制を整備し、国内外各事業拠点の再編・統廃合を順次進めております。

ショベル事業は、国内では最新の排ガス規制開始前の駆け込み需要が堅調、海外では最大需要国である中国及び東南アジアの需要底打ち、インドでの好景気継続による需要の伸長など、総じて新興国を中心に需要の拡大傾向が続く見込みです。一方クレーン事業は、これまで堅調だった国内が減少に転じ、海外でエネルギー関連向けを中心に需要低迷が継続するなど、厳しい状況が続く見込みです。企業を取り巻く環境は絶えず変化しますが、ショベル事業とクレーン事業双方で培ってきた強みを伸ばし、弱みを補完することにより、新生コベルコ建機はさらなる強い事業体へと成長してまいります。

中期経営計画による新たな価値の創造

昨年度から2020年度までの新しい中期経営計画がスタートしています。中期経営方針は、①業界のチャレンジャーとして、「商品」と「ものづくり」さらに「流通・サービス」の差別化を推し進め、グローバル市場で成長し続ける ②建機ビジネスを通じて、新たな価値を創造し、豊かな社会の発展に寄与する、としています。この方針に沿って、具体化した課題を着実に取り組んでいきます。2017年度は、中国における販売・生産体制の抜本的な再構築や、大型クレーン事業の基盤

確立、ICT戦略の強化を重要な課題と捉え、環境変化への感度を高めるとともに、お客様とともに新たな価値を創造してまいります。

社会から期待され必要とされる企業へ

コベルコ建機グループは、日々の活動を通じて社会に価値を提供し、価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。私たちは、国内外の災害復興支援や事業所ごとの環境保全への取り組みのほか、これまで地域の方々と直接交流できる活動に力を入れて取り組んでまいりました。これらの活動の継続により、地域の方々とのつながりが生まれています。また、私たちの開発・生産する製品には、『低燃費のコベルコ』としての高い燃費性能をはじめとした環境に優しい技術を搭載しております。

更にコベルコ建機グループは、16年度より新たに、全世界の従業員の行動規範として『スピリット(SPIRIT)』を掲げました。従来の行動指針としていた「シンプル」「スピード」「オープン」に「コミュニケーション」「チャレンジ」「パッション」「ユニーク」「イノベーション」を加え、全世界のコベルコ建機グループにおいて、世代、国、地域を超えて共有しています。このスピリットにもとづき、グループ従業員一同、社会との関わりの中で、コベルコ建機グループだからできる、より価値ある活動を目指し日々邁進しています。

こうした価値ある活動を継続し、社会と相互に信頼関係を築き、互いに必要とされることで、より良い豊かな社会の発展に寄与してまいります。これからも、コベルコ建機グループらしい活動を展開してまいりますので、どうぞご期待ください。

コベルコ建機グループの経営と企業理念

コベルコ建機グループは、日々の企業活動を通じて、社会に価値を提供し、価値が社会に受け入れられることで生まれる好循環により、社会とともに成長していくことを目指しています。

中期経営方針と戦略

》中期経営方針

- 業界のチャレンジャーとして、「商品」と「ものづくり」さらに「流通・サービス」の差別化を推し進め、グローバル市場で成長し続ける。
- 建機ビジネスを通じて、新たな価値を創造し、豊かな社会の発展に寄与する。

》中期経営計画基本戦略

■ショベル事業の戦略

- ①欧米と次なる成長エリアでのプレゼンスを高め、世界におけるグローバルショベルメーカーとしての存在感を確立する。
- ②他社の追随を許さぬ差別化商品・サービス、ITを活用したソリューションを提供、「顧客」と「流通」から選ばれる企業体となる。
- ③いかなる事業環境変化にも追従でき、安定的に収益を確保できる強靱な事業基盤への進化を遂げる。

■クレーン事業の戦略

- ④安定収益確保に向けたオペレーションの質を向上する。
- ⑤事業の成長に向けた基盤を構築する。

■共通の戦略

- ⑥グローバル人材の効率的な育成とスピリットの浸透によるグローバル展開力を強化する。

企業理念

》経営理念

コベルコ建機グループは、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで顧客の満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

》経営ビジョン

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な「知と技」により、革新的ソリューションを提供いたします。このお客様価値の最大化活動を通じて、私たちは持続的成長を実現しグローバルトップブランドを目指します。

》SPIRIT

SPIRITとは、全世界のコベルコ建機グループ従業員を対象に、世代、国、地域を超えて共有される精神・価値観・行動規範です。

コンプライアンス

—INTEGRITY— 真摯な姿勢で

インテグリティ
コンプライアンスは、全ての行動・理念の大前提です。そして、INTEGRITY(真摯)はコンプライアンスを実現するために最も重要な姿勢です。国や地域、会社や部署、取引先、一対一の関係においても、私たちは誠実を旨に、様々なルールとマナーを遵守しなければいけません。いかなる権力や圧力にも屈せず、高い倫理観と真摯な姿勢を持ち続けることが、スピリットを含む企業理念を体現するための基盤になります。理念を、自分の信念に変え、1つ1つ実現していくこと。それこそが、私たちが目指す姿です。





人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

環境保全活動

製品の開発から製造に至るまで、一貫して環境負荷の低減を意識し、地球にやさしいものづくりを行っています。

Message.1

コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、私たちならではの地球環境保全を行っています。

Message.2

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

Message.3

コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、建設機械づくりの視点から、また企業としての立場から、人と地球にやさしい活動を続けています。CSR組織体制を整え、活動方針に従って、グループをあげてCSR活動に取り組んでいます。

社会・地域活動

地域に寄り添い、支え合いながら継続的な支援活動を実施し、これからの未来を育むために必要とされる企業を目指します。

ステークホルダーとの関わり

積極的に情報共有を行い、相互理解を深め業界全体の発展に貢献します。また、より良い職場環境づくりを推進します。

》 CSR活動方針

- コベルコ建機グループは私たちならではの地球環境保全を行います。
- コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

》 グループ環境管理基本方針

基本方針：『グループ環境経営の実践による企業価値向上』

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業、持続して成長する企業、人間の幸福を実現する企業を目指し

- (1) 環境に配慮した開発・生産活動
- (2) 製品・サービスでの環境への貢献
- (3) 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

活動実績

環境保全活動	特集 製品	次世代を見据えて創り出すコベルコの環境技術 低燃費や低騒音をはじめ、コベルコの製品には環境性の高い数々の技術が搭載されています。それと同時に作業性・安全性も追求し、地球上のあらゆる現場で活躍する「地球型建機」として進化を遂げました。さらなる作業効率化を実現し、地球環境の未来を見据えた高い環境性能で時代をリードします。	page 05
	生産	細かな無駄をなくし、日々積み重ねることで環境に貢献 LED化による電力消費量の削減や電子マニフェストの導入、有機溶剤を含まない塗料の採用、また製品物流の見直しなど、コベルコ建機グループの各生産拠点ではCO ₂ 低減につながる省エネ活動や廃棄物削減の取り組みを進めています。製品の環境性能だけでなく、製造・輸送過程においても環境保全への高い意識を持ち、環境負荷低減に努めています。	page 09
社会・地域活動	教育支援	未来へつながる子どもたちとのふれあい 地域に親しまれ、ともに成長することを大切に考えて、子どもの教育支援に積極的に取り組んでいます。各地の学校訪問をはじめ、油圧ショベルをテーマにした理科の出前授業やレスキューロボットチャレンジなど、機械とのふれあいや学びを通じて子どもたちに建設機械や理科に興味を持ってもらうための活動をしています。	page 11
	交流	地域とともに支え合い、より良い豊かな社会づくりへ コベルコ建機グループが事業を行う地域において、従業員の直接参加を基本とした継続的な支援活動を行っています。地域振興イベントへの参加や清掃美化活動、森林整備活動などさまざまな活動を通じて地域住民の皆さまとの交流を深め、より良い豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。	page 13
ステークホルダーとの関わり	お客さま・取引企業	コミュニケーションの輪を広げ、互いの良さを高め合う ディーラーミーティングや生産連絡会など、お客さまや取引企業との多彩なコミュニケーションの場を設け、情報共有や信頼関係の構築に努めています。互いに理解を深めながら切磋琢磨することで連携の強化につながり、グループの枠を超えて業界全体での繁栄を目指しています。	page 15
	職場	社員一人ひとりが働きがいのある職場を目指して 全従業員が心身ともに充実して働けるよう、ワークライフバランスを考慮した取り組みを積極的に行っています。また、ダイバーシティの推進や人材育成制度の充実など、社員一人ひとりが活躍できる職場環境づくりを進め、社内活性化と技術力向上を目的としたさまざまな活動を実施しています。	page 16

特集 I ▶ ショベルの環境性能 進化を止めないコベルコの環境性能

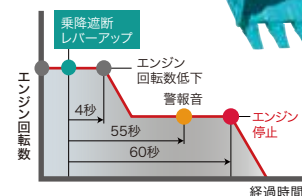
コベルコ建機グループは設立以来、常に時代をリードする環境技術の開発に取り組んでいます。業界トップクラスの低燃費性能や周辺環境へ配慮した低騒音、排出ガスのクリーン化を実現した環境エンジンなど、コベルコが誇る油圧ショベルの環境性能は今もなお、進化し続けています。

低騒音

国土交通省が認可を行う「超低騒音型建設機械」の基準値を達成。(申請中)

AIS (オートアイドルストップ)

乗降遮断レバーアップ状態が続くと自動でエンジンを停止。待機時などのムダな燃料消費をなくすとともにCO₂排出量を低減します。



約 **12%** 燃料消費量
(SK200-9型機Hモード比)

さらなる低燃費を追求

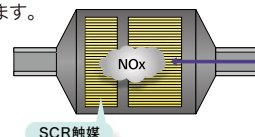
油圧の流れを効率的に制御する新ブーム／アーム回生や、圧力損失の低減により、従来機に比べ、全てのモードで燃費性能がアップ。この10年では約38%の燃費低減を実現しています。

約 **88%** Nox排出量
(SK200-9型機比)

排出ガス2014年規制をクリア

エンジンの排気系に尿素SCR※1システムを搭載し、NOx※2を無害な窒素と水に分解。PM※3を確実に捕集・焼却する排ガス後処理装置※4との組み合わせにより、排出ガスを大幅にクリーン化します。

- ※1. SCR: Selective Catalytic Reduction
- ※2. NOx: 窒素酸化物
- ※3. PM: 粒子状物質
- ※4. 排ガス後処理装置: DPFまたはDOC



衝突軽減システム (仮称)

自動停止機能を備えた衝突軽減システム(仮称)を新たに開発しました。走行中だけでなく、旋回中も機械周辺の人や物を検知し、人や物が近づくと減速・停止する機能を備えています。また、停止後も障害物を検知していない方向へは操作を可能にし、作業性と安全性を両立しました。

約 **22%** CO₂排出量
(SK200-8型機Ecoモード比)

独自の油圧システムやAISなど、進化を続ける低燃費機能により、機械の燃料消費量を減らし、CO₂排出量を低減。新型機(10型)は8型機と比べ、CO₂排出量を約22%低減しました。

※本ページの数値データは、SK200-10のものになります。機種によって数値が異なります。

INTERVIEW 開発者インタビュー

革新的な チャレンジスピリットで 業界を先導

SKシリーズ 10型/ ハイブリッドショベル10型の開発

グローバルエンジニアリングセンター
開発本部 先行技術開発部 イノベーション推進グループ
土井 隆行



圧倒的な燃費性能で歴史的モデルともなったSKシリーズ8型から、革新的進化を遂げた最先端モデル10型が2016年、国内販売を開始した。追求したのは「低燃費、さらに高耐久」。地球上のあらゆる場所でタフに働き続けるために、地域に合わせた丁寧な調整を余儀なくされた。電機関係の技術開発を担当した土井は、人気モデルのフルモデルチェンジを振り返る。「燃費性能を向上させつつ、パワーや耐久性をさらに上げるのは至難の技でした。温度・湿度・ほこり・使い方が全く違う環境で力を発揮するために、パーツや配線の形状から配置までも見直しました」。先行して売り出された海外では、過酷な作業環境での高い省エネ機能とパワーを兼ね備えた新型機に、ユーザーが驚きを隠せない。

コベルコはハイブリッドショベルにおいても世界のパイオニアだ。2016年、ハイブリッド技術の粋を集めたフラッグシップ機「SK200H-10」を上市した。20トンクラス業界初のリチウムイオンバッテリーを採用。従来のキャパシタと比較して、蓄電量、持続力、アシスト効率が向上した。それに伴い、旋回動作を油圧から電動モーターに変更。旋回動作の完全電動化により快適でスピーディな旋回性が実現した。



開発のスタートは2011年。低燃費を推し進め、パワーを上げることは、ハイブリッドにも課せられた課題だった。プロジェクトチームは、国内乗用車にさえ使われていなかったリチウムイオンバッテリーに注目。「すぐに追いつかれるような技術ではダメだ」と思い切って挑戦するしかないと思いました。国内初の取り組みに、神戸製鋼の神戸総合研究所とも連携し、電池メーカーと3社で開発を進めた。「小さい電池をいくつもつくり、条件を変えては実験を繰り返しました」。実機に載せてのテストは、それから数年後のことだ。「過酷な環境下での実際のテストも必要でした。寒冷地の実験に真冬のフィンランドにも行きました」。パワーやスピードを犠牲にしない、新たな低燃費を追い求める姿勢が、新しい技術を生んだ。過酷な環境でもなお、地球にやさしく、タフに働き続けるショベルをコベルコはつくり続ける。

TOPICS ハイブリッドショベル SK200H-10

業界初・リチウムイオンバッテリー採用ハイブリッドショベル

2016年11月、業界初となる大容量リチウムイオンバッテリーを採用した、最新鋭の20トン級ハイブリッド油圧ショベル「SK200H-10」の販売を開始しました。1999年にハイブリッド油圧ショベルの研究開発をスタートし、2006年に世界初の製品化。その後も改良を重ね、より省エネ・高性能化してきました。

新型機の大きな特徴は、キャパシタからリチウムイオンバッテリーに変更し、大容量の蓄電と、持続的でパワフルなアシストが可能となったこと。作業負荷がかからないときは蓄電され、負荷がかかるときは継続的にエンジンをアシストすることでエンジン負荷が軽減し、これまで以上のパフォーマンスを発揮します。その結果、最大で燃費低減約19%・作業量約10%の向上。「低燃費、さらに高耐久」を実現した最新鋭の機械です。



特集Ⅱ ▶ クレーンの環境&安全性能 環境と安全を守る コベルコクレーン

業界初となる省エネ機能を多数搭載したマスターテックGシリーズのコンセプトを引き継ぎ、最新の排出ガス2014年規制適合エンジンを搭載したG-2シリーズが誕生。コベルコ独自開発の省エネシステム「Gモード」もさらに進化し、環境性能の追求を続けています。

■ IS(アイドルストップ)

無駄なエネルギーを使わない

停車時のエンジンストップを促す「オートアイドルストップ(AIS)」を2011年より業界で初めて採用。次のトレーラーが来るまでの待ち時間などに、自動的にエンジンがストップ。建て方、港湾荷役など各作業で省エネ効果を発揮します。また、新たにG-2シリーズより「マニュアルアイドルストップ(MIS)」を設定。オペレーターの意思でアイドルストップさせることが可能になりました。エンジン停止のためには、AIS時14項目/MIS時9項目の条件があり、安全性に配慮しています。

■ Gエンジン

燃費改善効果 10%を実現

エンジン回転数をコントロールし、燃費効率の良い領域でエンジンを運転する機能。通常、エンジン回転数を下げればウインチ速度も下がりますが、GエンジンをONにすると、ポンプ制御により主補ウインチの最高速度をキープしたままつり作業が行えます。一般的なクレーン作業では約10%の燃費改善効果がもたらされます。

■ Gウインチ

省エネ性能と スピードを両立

無負荷または負荷が軽い場合、高速モードの使用により、エンジンの回転数を上げなくても最高ラインスピードでの巻き上げが可能。新たにG-2シリーズより、旋回および起伏中でも作動するよう機能アップしました。安全機能として、4項目の条件を満たさなければ作動しないよう設計してあります。

■ 新クリーン ディーゼルシステム

NOx排出量を 大幅低減

ディーゼルエンジンの排気に含まれる有害物質を抑える新システムをエンジンに搭載しました。排出ガスに尿素水を噴射し有害なNOxを無害な水と窒素に分解する尿素SCRシステムと、PM除去に最適なDPFとの併用により、排出されるガスを大幅にクリーン化。排出ガス2014年規制をクリアしています。

INTERVIEW 開発者インタビュー

クローラクレーンの 新基準を 生み出す

クローラクレーン マスターテックG-2シリーズの開発

グローバルエンジニアリングセンター
開発本部 要素開発部 電機制御系開発グループ
山田 純平

コベルコが生み出した革新的クローラクレーン、マスターテックGシリーズの後継機として、フルモデルチェンジしたG-2シリーズが登場した。排出ガス2014年規制にいち早く対応し、省エネ機能「Gモード」もユーザーニーズに合わせて改良。世界トップクラスの高い環境技術がふんだんに盛り込まれた。

排出ガス規制は、それまでの5分の1という厳しいNOx低減が求められたため、NOxを尿素で窒素と水に分解する尿素SCRシステムを使った新開発エンジンを搭載。新エンジンは、バスやトラック用に開発されたもので、建設機械は初めてだった。電機制御を担当した山田は言う。「クレーン独特の動きに加え、センサーや装置が増えて複雑になるので、機械とエンジンとのマッチングが一番の課題でした」。エンジンメーカーとの調整はいつも以上に時間をかけ、丁寧なコミュニケーションと細かな修正を重ねたという。



ユーザーから高い評価を得る省エネ性能「Gモード」も、さらにブラッシュアップした。業界初のオートアイドルストップ(AIS)は、待機中にエンジンが自動停止する機能だが、新たに、オペレーターが停止のタイミングを手動でコントロールできるようになった。「手動ですが、いつでも切れるわけではありません。安全のため9項目の条件を満たさなければ作動しない仕組みです」と安全機能を解説。AIS時には14項目が条件だ。また、エンジンを不要に高回転させなくても、高速でウインチを巻き上げる「Gウインチ」も性能が向上。ブーム旋回中や起伏時でも、同時に動かせるようになった。「安全性を確保しながら多機能にするのは、思った以上に難しかった。1年を予定していたシステム開発は、検証を繰り返し、1年半かかってしまいました」と山田が苦笑いをする。これらの環境・安全性能に加え輸送性もアップさせ、ユーザーの使い勝手を高めたG-2シリーズは、クローラクレーンの新基準となって業界をリードしていくだろう。

TOPICS クローラクレーン SL16000J / SL16000J-H

国産最大級の超大型クローラクレーン

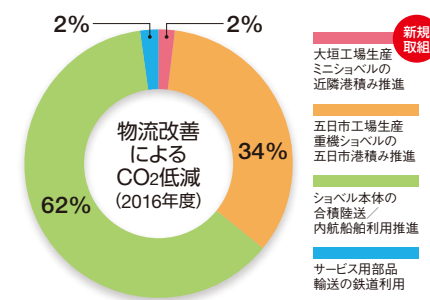
2016年5月、超大型クローラクレーン「SL16000J(最大つり上げ能力1,000t)／SL16000J-H(最大つり上げ能力1,250t)」を国内向けに販売を開始しました。世界で超大型クローラクレーンの需要が高まる中、事業基盤確立の取り組みのひとつとして、日本国内の需要に合わせて誕生した国産最大級のクローラクレーンです。

従来機SL13000の後継機として、クレーン能力の大幅な向上に加え、コベルコならではの環境性能を發揮。排出ガス2011年基準に適合し、低騒音型建設機械の指定を取得しています。また、合理的なユニット構成、軽量設計ならびに機器配置の見直しによって、効率の良いパッケージ化と組立分解のしやすさを実現、輸送性能を高めています。

環境保全への取り組み

》物流改善でCO₂低減

製品物流を見直すことで、CO₂排出量低減に取り組んでいます。2009年10月に特定輸出申告制度を導入し、五日市工場で生産する中大型ショベルは、工場に隣接する五日市港から輸出しています。神戸港から輸出していたそれまでに比べ、港までの製品輸送にかかるCO₂排出量の大幅低減を可能にしました。2016年度は、大垣工場で生産したミニショベルの輸出についても、同工場から一番近い港に集約することで製品輸送距離が短縮され、CO₂排出量を低減しています。これらの物流改善の取り組みにより2016年度の原単位※1は前年度比3.8%改善しました。



※1 輸送に係るエネルギー使用量(原油換算)+コベルコ建機(株)単体の売上高

》照明のLED化による省エネ推進

省エネ活動の一環として、各工場において設備照明のLED電灯への切り替えを進めています。従来までの照明に比べ消費電力が削減されるとともに、1灯あたりの照度も高く作業環境の向上にもつながるため、作業エリアごとに目標の照度を設定し、順次LED化しています。2016年度は、五日市工場で溶接などを行う製缶棟の天井灯全てをLEDに切り替え、CO₂の低減に寄与しました。五日市工場と沼田工場では、それぞれ7~9割の照明をLEDへと切り替えています。



》電子マニフェストの導入

排出事業者が産業廃棄物の処理を委託する場合に使用することが義務づけられているマニフェスト(産業廃棄物管理票)について、広島事業所では2016年度より、電子マニフェストを導入しました。以前は、廃棄物の管理は紙媒体のマニフェストで行っていましたが、電子マニフェストの導入により、情報管理の合理化につながることはもちろん、廃棄物処理の適正化や効率化、またコスト軽減にも貢献しています。

》有機溶剤を含まない塗料の採用

製品を塗装する塗料には、大気汚染の原因となる揮発性有機化合物(VOC)が含まれています。また、作業環境改善・廃棄塗料削減の観点からも、塗装効率を高め、塗料の使用量を減らす取り組みを続けてきました。2016年度は塗料について見直しを行い、沼田工場の一部の工程にて有機溶剤を含まない塗料を採用、有害物質の発生量を大幅に低減しました。今後も国内の各生産拠点において、有機溶剤の含有量が少ない塗料への切り替えを順次進めていく予定です。



環境保全活動報告

ライフサイクルを意識し 環境保全を図る

製品だけでなく、製造現場においても
ライフサイクル全体を考慮した環境保全を推進。
工場での環境負荷低減の取り組みをはじめ、
周辺地域を意識した環境保護に努めています。



大垣工場



大久保工場



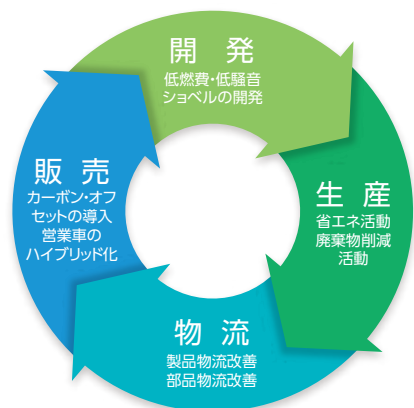
五日市港からの輸出

環境数値

》事業活動に伴う排出量

コベルコ建機グループは、開発・生産・物流・販売の事業サイクルに合わせ、さまざまな環境保全活動を展開しています。工場ごとのCO₂低減につながる省エネ活動や廃棄物削減などの取り組み、生産や開発においても低燃費などの環境性能を高めた製品づくりを進め、環境保全に努めています。

ここでは、2016年度の国内生産拠点における環境数値を紹介します。



広島事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	フレーム塗装下地	230	39
	フレーム塗装仕上	230	19
	ATT塗装	230	7
ばいじん	フレーム塗装下地	200	6
	フレーム塗装仕上	200	5
	ATT塗装	200	5
ダイオキシン類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
COD	—	—
SS	—	—
油分(鉱油)	35	2.3
ダイオキシン類	—	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	94,000	0	0	0	0	26,000	塗装
エチルベンゼン	39,000	0	0	0	0	3,100	塗装
トルエン	8,800	0	0	0	0	8,200	塗装

取扱物質総数 4

大久保事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—
ばいじん	該当なし	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
BOD	600	320
SS	600	33
油分	5	0.6
ダイオキシン類	—	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	92,000	0	0	0	0	0	塗装
エチルベンゼン	57,000	0	0	0	0	0	塗装
トルエン	9,700	0	0	0	0	0	塗装

取扱物質総数 5

大垣事業所

■大気

項目	設備	規制値	実測値(最大)
NOx	該当なし	—	—
ばいじん	該当なし	—	—
ダイオキシン類	該当なし	—	—

■水質

項目	規制値	実測値(最大)
COD	1.65(kg/日)	1.61
SS	40	1.1
油分	5	1
ダイオキシン類	—	—

■化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、使用目的など
	大気	公共用水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	28,000	0	0	0	0	5,000	塗装
エチルベンゼン	27,000	0	0	0	0	4,000	塗装
トルエン	18,000	0	0	0	0	3,000	塗装

取扱物質総数 4

■大気データ

※規制値:大気汚染防止法、環境省、ダイオキシン類対策特別措置法 ※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³ ※規制値は、対象施設ごとに決められています。 ※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。 硫黄酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化水素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン

■水質データ

※規制値:水質汚濁防止法、環境省、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは市下水道条例、協定値 ※単位:COD・SS・油分はmg/l、ダイオキシン類はpg-TEQ/l ※ND:分析定量限界値以下(検出されない) ※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。 pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質

※単位:kg

《 事業所長に聞く! 》

VOICE

コベルコ建機(株)
広島事業所 所長
瀧川 誉

一人ひとりの環境意識を高めたい

昨年度、からくり改善くふう展の台車部門で優勝しました。毎年参加するうちに、社員のエネルギーに対する考え方も変わってきたように感じます。五日市工場は地域の方との交流もあり、開かれた工場を目指しています。環境に配慮した気持ちのいい工場でありたいと思います。

VOICE

コベルコ建機(株)
大久保事業所 所長
齋藤 敬治

塗装工程の大規模な見直しを実施

現在「大久保リニューアルプロジェクト」を進行中。新設備の導入で、より効率的な塗装方法に変更し、塗料の切り替えも実施します。また、製品納入時に渡す工具の梱包を鉄製の箱タイプに切り替えました。廃棄物がなくなり、環境にもやさしく、お客さまにも喜ばれています。

VOICE

コベルコ建機(株)
大垣事業所 所長
秋山 健

部品の物流改善で大幅な省エネ

2016年度は、加工機の更新で生産性を上げるとともに、部品納入の効率化を図り、トラックの便数を減らし、CO₂排出量の低減に取り組みました。2017年度は、特化物や有機溶剤の含有量が少ない塗料への切り替えを目指して、さらなる挑戦中です。

》活動理念

コベルコ建機グループは、グローバル企業としてさまざまな国や地域で事業展開するなかで、事業を行うエリアでの友好な関係づくりや信頼感の構築が重要だと考え、地域密着型かつ継続的なCSR活動を推進しています。地域に親しまれながら、ともに成長することを目指し、住民との交流や地域社会への貢献につながる活動に取り組んでいます。そのため支援の内容や方法は、従業員が自分で調べ、自ら参加することが基本です。活動を通して地域の特色や住民の思いを理解するとともに、コベルコ建機グループの担うべき役割について考える機会にもなっています。

また、地震などの大災害が発生した場合は、復興支援として義援金の提供や、現場で必要な建設機械の寄贈、オペレーターの派遣などを行っています。必要なこと、可能なことを、広い視野で検討し、人や社会に貢献できる活動を実施しています。

コベルコ建機グループが地域社会や住民にとって不可欠な存在となれるよう、コツコツと活動を積み重ねています。

》CSR基金

社会貢献活動をコベルコ建機グループとして支援・実践し、より積極的に継続的な活動を促進するため、2006年度にCSR基金を設立しました。CSR基金では地域社会はもとより、社会全体への貢献活動も積極的に支援。人材育成や世界各地での教育支援など、多彩な活動を支援しています。

対象となる活動は社内で公募。地球環境の保全や地域社会への貢献など、コベルコ建機グループのCSR活動としてふさわしい国内外の活動に対して資金援助を行い、スムーズな運営や、継続的な活動につながるようサポートしています。

》CSR賞制度

コベルコ建機グループでは毎年、各事業所やグループ会社が実施したさまざまなCSR活動の中から、最も優れた活動に対してCSR賞を授与しています。2007年度に制度を開始して以降、毎年多くの活動がノミネートされ、下記の基準で選考を実施、表彰します。

- 環境対応、地域貢献、人材育成などのCSRへの取り組みにおいて、顕著な功績をあげたこと。
- CSRへの取り組みを通して、コベルコ建機グループの名誉、またはブランドアップとなるような功績をあげたこと。
- 産業災害やその他の災害を未然に防止、またはこれらの災害に際し人命救助をしたこと。

賞の授与を通じて、その活動を称えるとともに、より一層の活動を奨励しています。また、優れた活動を周知することで、ほかの取り組みの模範となり、より多くの優れた活動が育ってCSR活動が活性化することを目指しています。



理科の出前授業



中学生レスキューロボットチャレンジ



近隣幼稚園の訪問

社会・地域活動報告

ふれあいを重ね 地域社会と共栄

地域社会の一員として、地域や住民との絆を深め、
地域の活性化に貢献します。
互いの理解と信頼のもと、
ともに成長していく関係を目指しています。



慶興神鋼小学校への教育支援

TOPICS.01

2016年度
CSR賞
受賞

理科の出前授業 (日本・広島)

●受賞：広島CSR委員会

建設機械を通じて 理系人材育成の 活性化へ



毎年実施している小学6年生対象の理科の出前授業に加え、2016年度は大和ミュージアム(呉市)での出前授業と、広島大学との共同活動の一環として、理系高校生を対象に講義を行うグローバルサイエンスキャンパス(GSC)を開催しました。

大和ミュージアムではこれまでの出前授業とは異なり、小学1～6年までの児童たちが参加する初の試みを実施。幅広い年齢の子どもが対象になるため、分かりやすさ、伝わりやすさをより意識した資料を新たに作り、参加された皆さんに興味を持ってもらえるような授業を行いました。また、GSCではショベルの基礎知識をはじめ、油圧の仕組みや設計に求められることのほか、理科、物理、数学の知識を使いショベルの安定度や掘削力を求める計算問題にもチャレンジ。ショベルをテーマにした実践的な講義の中で、普段学校で学ぶ授業が実際の社会でも役に立つことを知ってもらうきっかけとなりました。

今後、より多くの子どもたちに理科や建設機械に興味を持ってもらうため、これまで続けてきた活動の充実を図り、広く展開していきます。



産学連携でつなぐ次世代へのバトン

CSR活動メンバーの皆さんにはGSC実施に向けた積極的な提案をいただき、学生たちからは「高校の学習が実際に社会で使われていることを実感した」との声を多く聞きました。理系人材育成の課題は大学だけの解決は難しく、GSC活動を通じた産学連携による地域一体の取り組みを今後も行っていきたいと強く望んでいます。

広島大学大学院生物圏科学研究科・准教授 GSC広島実施主担当者 **西堀 正英**さん

VOICE

TOPICS.02

慶興神鋼小学校 への教育支援 (中国・成都)

継続してこそ 生まれる 地域との強い絆



コベルコ建機グループが拠点を構える四川省成都市の中心部から、北へ25kmほど向かった場所にある慶興神鋼小学校。2008年に起こった四川大地震で損壊した小学校の校舎再建からスタートした、現地法人3社による継続的な支援活動は今年で9年目を迎えました。

新学期に合わせた新入生へのランドセルの寄贈をはじめ、毎年6月の

こどもの日には運動用具や教育用品の寄贈を行っており、当日は子どもたちと社員が一緒に参加するバレーボール交流大会を開催しています。現地法人のCSR活動メンバーを中心に、当社グループ社員が積極的に参加し、スポーツを通じて楽しみながら活動を行っています。

これからも、勉強やスポーツ、音楽教育などの充実を目的に、子どもたちへの教育に役立つさまざまな支援を継続して行い、互いの理解をさらに深め、地域に根差した活発な交流を続けていきます。



再建から現在に至るまで続く教育支援に感謝

震災後の校舎再建はもちろんですが、その後9年もの間に渡って継続して支援していただいていることに、感動とともに感謝しております。子どもたちには勉強だけでなく、部活動も充実させてさまざまな教育を受けてほしいと思っています。いつかチャンスがあれば、子どもたちに日本のコベルコ建機の会社を訪問させてみたいです。

慶興神鋼小学校 校長 **趙 懷素**さん

VOICE

国内外に広がるさまざまな活動

●活動一覧

岐阜	HIRO学園 建機写生大会
広島	コベルコ建機カップ 中学生レスキューロボットチャレンジ
福岡	どこでんいく隊との地域活性化活動
中国(成都)	慶興神鋼小学校への教育支援
国内での地域活動	
北海道～神奈川	学校訪問活動
東京・千葉	企業訪問学習受け入れ
兵庫	KOBELCOの森 森林整備活動
兵庫	コベルコラグビーフェスティバル参加
兵庫	神鋼かこがわフェスティバル参加
兵庫	ECOWAYの森 森林整備活動
広島	理科の出前授業
広島	高校生向けの建設機械講座・実機見学会
熊本	熊本地震募金活動
各事業所	地域清掃活動
各事業所	エコキャップ収集活動
各事業所	展示会でのCSRブース出展
海外での地域活動	
中国(杭州)	河川清掃員への飲料提供
中国(杭州)	近隣幼稚園での植物植え活動
中国(杭州)	臘八節(春節前)の近隣住民へのお粥提供
中国(杭州・成都)	地域清掃活動
地域イベントの参加	
東京	しながわ夢さん橋
岐阜	大垣十万石まつり
京都	京都丹州もくもくフェスタ
兵庫	建設ふれあいまつり
三重	夏のエコフェア
広島	佐伯区民まつり
愛媛	はたらく車ショー



《 CSR委員に聞く! 》

VOICE

東日本コベルコ建機(株)
業務管理部
業務グループ

品田 圭佑



教育現場でのコベルコ体験を増やしたい!

近隣の小学校・幼稚園を訪問し、実際にショベルを持ち込んで写生大会やクイズ、掘削の実演、試乗などの体験をしてもらっています。子どもたちにとって忘れられない体験を味わってもらうことで、学校内外でコベルコの話が増え、ショベルを身近に感じてもらうだけでなく、将来の建機業界を取り巻く就職環境の改善になればと思っています。現在は近隣の教育機関ですが、ゆくゆくは各地域に活動地域を広げていければと思っています。

VOICE

西日本コベルコ建機(株)
中部支社
東海中央営業所

三橋 良輔



地域密着で定期活動し 定着化を図る

中部エリアのCSR委員になって1年半になります。私たちは、地域社会・住民の方々にとってより身近で親しみやすい活動ができるよう努めています。主な活動として、毎年秋に開催している大規模な展示会でCSRブースを設け、活動の紹介や子どもが楽しめるゲームコーナーを出展しています。また、中部支社周辺にある西知多産業道路の清掃活動にも定期的に参加しています。本社、東西販売会社問わず、各エリア・個人でできる活動を着実に積み上げることが重要だと考えています。

VOICE

コベルコ建機(株)
企画本部 総務部
大垣総務グループ

沖 建志



地域交流を図り、 大垣市の活性化に貢献!

大垣事業所は、住宅や他社工場と隣接し、地域の理解なしには安定した操業は望めない環境です。例年、神鋼造機(株)と共同で参加している、十万石まつりやHIRO学園での建機写生大会のように、地域との交流を大事にしていきたいと思っています。特に十万石まつりは、地元企業の従業員が神輿を担いで練り歩き、大垣の秋を彩る風物詩となっています。2016年も両社従業員とその家族が120名ほど参加し、大いに盛り上がりを見せました。活動を通して大垣市の活性化に貢献したいと思います。

VOICE

コベルコ建機(株)
GEC 開発本部 要素開発部
動力制御系開発グループ
(大久保)

福田 紀久



月に一度の定例会で 活動計画を立案中!

大久保CSR委員会は、2016年10月に新たに発足しました。近所の清掃活動からスタートし、地域に根差すCSR活動を目標に活動計画を練っています。現在考案中のプランは、近隣の海浜清掃や工場の美化活動の一環で「グリーンカーテン」の設置、工場見学会での理科教室などで、近隣のコベルコ教室や部品センターと協力して、大久保地区のメリットを生かしたコラボレーション企画も考えています。企画がまとまり次第、皆で協力して取り組んでいきたいと思っています。



コベルコ建機 CSR



詳しい活動内容は、WEBをご覧ください。
CSR 私達の社会貢献活動: <https://www.kobelcocm-global.com/jp/csr/society/>

お客さま・取引企業との調和

セミナーや親睦の機会を設けることで、お客さまや取引企業、関係会社と情報を共有し、信頼を深めています。相互理解と切磋琢磨によって連携を強化し、ともに発展することを目指しています。

》世界最大級・建設機械の展示会

コベルコの製品・技術を世界に発信するため、世界各地の建設機械展示会に出展しています。2016年4月には、ドイツ・ミュンヘンで開催された「Bauma2016」に出展し、“Next Generation Champions”をコンセプトに、欧州へ再進出したコベルコブランドをアピールしました。2017年3月には、アメリカ・ラスベガスの「ConExpo-Con/Agg2017」に出展。“BUILT LIKE NO OTHER”をコンセプトに、最新の排出ガス規制に適応した建設機械と、他社にはないコベルコ独自の製品、最新技術を披露しました。世界中から家族連れを含む、多くの方々にお越しいただきました。



》資源リサイクル会・森林セミナー

国内で資源リサイクルや林業に従事するお客さまに向けて、業界の最新情報を提供するセミナーを定期的に開催しています。2016年度の資源リサイクル会では、先進マグネットシステム「eマグ」や最新ハイブリッド機などコベルコの最新技術を紹介するとともに、前大阪市長・橋本徹氏の講演を催しました。森林セミナーでは、林業機械ラインナップに加え、現場需要に応える参考出展機を紹介し注目を集めました。両セミナーは、事業に役立つ情報収集の場として、また参加者同士の交流の場としても好評をいただいています。

》生産連絡会

部品を供給いただいている取引企業をはじめコベルコ建機グループの協力企業が一堂に会する生産連絡会を毎年開催しています。2016年度は193社390名が参加。事業環境や需要動向、また中期経営計画における取り組みなどについて、理解を深めていただきました。懇親会は、コベルコ建機グループの経営陣との親睦の場でもあり、率直な意見をいただく良い機会にもなっています。

》合同品質会議

世界共通品質を目指す合同品質会議を五日市工場で毎年開催しています。11回目を迎えた2016年度は、5か国10拠点から約50名が参加。新型油圧ショベルの全世界展開や、最新の排出ガス規制適合クレーンの生産など大きな変化に対応するため、「変化に強いものづくり」をテーマに意見交換し、目標達成に向け活動することを互いに確認しました。また品質向上活動で高い成果を上げた中国現地法人(成都)と大久保事業所が「QUALITY AWARD」を受賞しました。



ステークホルダーとの関わり

さまざまなサポートを通じ 連携と信頼を築く

情報共有やコミュニケーションの場を設け
取引企業との相互発展に努めています。
また、ダイバーシティやワークライフバランスを
考慮した職場整備も進めています。



職場づくり・人づくり

従業員が心身とも健やかに、高い成果を生み出せるよう職場環境の整備と人材育成に力を注いでいます。仕事の充実感と同時に、家庭や地域など個人生活の充実も図るため、ワークライフバランスへの取り組みや、社会の変化に対応したダイバーシティの推進などを積極的に実施。社内活性化や技術力向上などを促す活動も行い、働きやすい職場づくり、人づくりに努めています。

》ワークライフバランスの推進

従業員一人ひとりの仕事と暮らしとともに充実させるため、神戸製鋼グループ全体で取り組んでいる「働き方改革」。コベルコ建機グループでは、業務時間の限定と業務の高度化により、“個々人の幸せ”と“会社の幸せ”を向上させることを目的に「ワークスタイル変革活動」を積極的に展開しています。具体的には、①時短(業務拘束時間の限定) ②KOBELCO流会議推進 ③KOBELCO流メール推進 ④業務改革 を4本柱に、朝方勤務への移行、スマート会議推進による会議の効率化、KOBELCO流メールのルール周知・実践、業務改革推進者の設置などを主に実施しています。現代社会に合った新しい生き方・働き方を求め、これらの活動を引き続き実践・推進し、より良い制度や体制を整えていきます。

》ダイバーシティの推進

コベルコ建機グループはグローバル市場で成長し続ける企業を目指し、さまざまな人材の能力を生かし、ともに信頼し合い協力して働ける職場づくりを進めています。2014年度からは、女性活躍の推進に力を入れ、女性自身の意識改革を目的としたセッションや、女性従業員と男性上司との意見交換会などを実施。全ライン長を対象にした女性部下のマネジメント研修なども行い、互いの理解と信頼を深めるべく活動をしています。今後は、外国人従業員の人材育成などにテーマを広げ、新しい職場づくりに積極的に取り組みます。



《 コベルコ建機グループ社員に聞く! 》

VOICE

コベルコ建機(株) 企画本部
人事労政部 採用研修グループ
大谷 由紀子



業界一、女性が輝いている会社には

管理職になって2年、最初は珍しい存在だったため周りも私自身もかなり意識をしていたと思います。その後、社長からの力強い発信などもあり、女性を含む周囲の意識も変わってきたと感じます。建機業界は女性の活躍が難しいといわれますが、女性活躍推進の担当者として、業界一女性がイキイキ働く会社にしたいです。

VOICE

コベルコ建機(株) マーケティング事業本部
ショベル営業本部 営業促進部
クレーンマーケティンググループ
Gerard Maloney



日本で誇れるグローバル企業へ!!

この会社に来て3年目になりますが、現在の仕事を楽しんでいます。グローバル企業であるため、海外のお客さまや関係会社と接する機会がとても多いです。社内のeメールなどは、どうしても日本語を使用する場面が多くなるため、若いころに学んだ日本語を駆使し日々奮闘しております。「Gambarimasu!!」

VOICE

Kobelco Construction
Machinery Europe B.V.
Sales and Field Marketing Department
中西 優子



世界が広がる、やりがいある職場

現在入社7年目で、2016年から欧州の現地法人に駐在となりました。海外での業務は多岐に渡り、また責任範囲も広がりますが、自身の裁量も増え非常にやりがいを感じます。また欧州では、さまざまな企業の女性駐在員も多く活躍しているので、時に悩みを相談し合いながら、私も頑張ろうと思える良い刺激になっています。



》人材育成

●グローバル人材育成

事業のグローバル化が加速的に進む中、世界の競合他社に打ち勝つ力を持ち、グローバルに活躍できる人材を効率的かつ継続的に育成する取り組みを行っています。語学力はもちろん、異文化理解やコミュニケーションスキルなど、必要な知識や能力を身につける研修を実施する一方で、若いうちから海外駐在を経験する機会を設けるなど、OFF-JTとOJTの両面からグローバル人材の育成を推し進めています。

●行動能力診断・階層別人材育成

業績などの成果は全て行動から生み出されるという考えのもと、「行動能力」を軸とした人材育成体系を構築し、活用しています。個人の行動能力を定期的に測定し、結果を本人が客観的に把握できるようにしています。また、従業員の職位階層ごとに「あるべき姿」を定義し、必要な能力やスキルが身につけられるよう、段階的な目標設定や研修を実施。早期に第一線で業務遂行ができるよう、充実した人材育成を行っています。

■研修体系について

役員	幹部研修			
管理職	リーダー研修			
	ビジネスリーダー候補育成			
	参与補研修			
	経営マネジメントスクール			
	参事3年目研修			
	新任管理職研修			
中堅社員	指導職1級研修			
	指導職2級研修			
	課題形成研修			
若手～中堅社員	入社5年目研修			
	入社4年目研修			
若手社員	入社3年目研修			
	入社2年目研修			
新入社員	新入社員研修(基礎力強化、資格取得等)			

コンプライアンス

『コベルコ建機グループのコンプライアンス』は、全ての違いを超える「人」としての基本的な行動指針です。

》コンプライアンスへの取り組み

コベルコ建機グループでは、企業理念の追求や経営行動の大前提として、コンプライアンスの完遂を位置づけています。

『コベルコ建機グループのコンプライアンス』とは、①法令遵守 ②社内ルールの遵守 ③モラル・マナーの向上 の3つを指します。グローバルな事業展開に合わせて、国内はもとより海外のグループ会社で、この『コベルコ建機グループのコンプライアンス』を推進する活動を実施しています。特に海外のグループ会社については、法律・社会習慣・取引慣行などが日本とは異なるため、現地の状況に合わせた取り組みを展開しています。



タイでの研修の様子(2016年11月)

MESSAGE

コベルコ建機(株)
取締役 常務執行役員
青山 扶

誠実で公正な姿勢を徹底。高い倫理観でグローバル社会での信頼を強固に

コベルコ建機グループでは、社会からの「信頼」に比べ続けるために墨守せねばならない最重要課題としてコンプライアンスを位置づけ、日々の活動を行っています。法令遵守はもちろんのこと、常に高い倫理観を持ち、誠実で公正な一貫性ある姿勢を堅守することは、事業環境や風俗、習慣、文化、宗教などがいかに異なろうと、全ての違いを超えた全世界共通の普遍的な価値であるという強い信念のもとで、高い意識で、グローバルに展開するコベルコ建機グループの隅々にまで浸透させていきます。

》Train the Trainer Project(海外でのコンプライアンス強化に向けた取り組み)

コベルコ建機グループでは、海外におけるコンプライアンスへの取り組みを強化するにあたり、“Train the Trainer Project”を発足させました。

このプロジェクトは、コベルコ建機グループの各海外関係会社において、コンプライアンス活動推進のためのリーダーとなる「コンプライアンストレーナー」を任命し、研修やマニュアル整備などを含むコンプラ

イアンス活動をより積極的かつ強力に進めるものです。コンプライアンストレーナーを育成するためのプログラムは、法務・監査部コンプライアンス統括グループが用意し、実行も担います。

国ごとの法令、文化、習慣、ルールなどの内容を加味し、より実効性のある効果的なコンプライアンス活動を推進するための鍵となるのが、この“Train the Trainer Project”なのです。

■コンプライアンストレーナーに求めるもの

STEP.1【知識の習得】

- 企業理念
- 事業活動にまつわる法令
- 自国のモラル・マナー…など

STEP.2【知識の展開・活用】

- 研修等の周知活動
- ルールやマニュアルの整備
- コンプライアンス違反発生時の不正調査…など

STEP.3【知識の継承】

- 後進の育成
(習得した知識、技術、経験を伝承)

《 インドネシア現地法人のコンプライアンストレーナーに聞く! 》

VOICE

P & A (Operation)

Chandra
Wicaksono



コンプライアンス研修を ケーススタディで分かりやすく解説

インドネシアにあるグループ会社PT.DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIAでは、2016年度のコンプライアンス活動として、本社や支店で各階層ごとにコンプライアンス研修を実施しました。同社のTriasさんが支店で内部監査とコンプライアンス研修を実施する際に、私は本社においてトレーナーとしてコンプライアンス研修を行いました。管理職向けにたくさんのケーススタディを紹介したことが、理解を促すのに非常に効果的でした。

VOICE

Internal Auditor

Trias
Nugroho



継続的な研修プログラムで、 コンプライアンスの徹底を図る

2016年度に、Chandraさんと私がコンプライアンストレーナーに任命され、コンプライアンスを普及させる役割を任されました。私は、各支店で業務監査を実施する際に、併せてコンプライアンス研修を実施し、記録として出席した従業員リストを作成しました。コンプライアンス研修は、本社や各支店で行われる研修プログラムのひとつとして組み入れられ、継続的に実施されています。別の担当者にも協力してもらい、コンプライアンス強化に努めています。

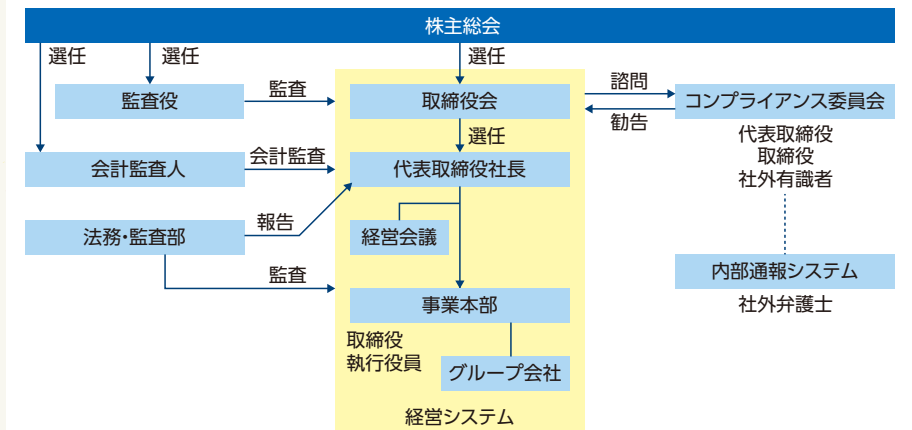
コーポレートガバナンス

企業の社会的な役割と責任を果たし、公正で健全かつ効率的な経営を行うために、企業統治の仕組みを整えています。

》コーポレートガバナンス体制

コベルコ建機グループは、企業価値の向上に向けて、より透明性の高い公正で効率的な経営の実現と、業務執行における迅速かつ確かな意思決定を目的に、コーポレートガバナンス体制を構築しています。また、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、外部弁護士を受付窓口とする「内部通報システム」を設置。万一、不正が起きた場合、早期に事実および原因を客観的に把握し、遅滞なく合理的な対策を講ずることに努めています。

■コーポレートガバナンス／内部統制システムの模式図 (2017年4月時点)



コベルコ建機グループの概要

●会社概要

会 社 名 コベルコ建機株式会社
英 文 社 名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
創 立 1999年(平成11年)10月1日
事業所所在地 東京本社：東京都品川区北品川5丁目5番15号
(大崎ブライトコア5F)
TEL.03-5789-2111(代)
広島本社：広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号
TEL.082-943-5321(代)
U R L グローバルサイト
https://www.kobelcocm-global.com
日本エリアサイト
https://www.kobelco-kenki.co.jp
資 本 金 160億円
株 主 構 成 株式会社神戸製鋼所100%
代 表 者 代表取締役社長 榎木 一秀 (ならき かずひで)
事 業 内 容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
従 業 員 数 1,715名(グループータル6,864名)[2017年3月末時点]
売 上 高 3,104億円(2016年度)

●国内の主な関係会社

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)、コベルコ建機エンジニアリング(株)、コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教室所(株)、(株)ササイナカムラ、(株)常南、トーヨースギウエ(株)、(株)ワイズヨシハラ

●海外の主な関係会社

成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)、杭州神鋼建設機械有限公司(中国)
神鋼建機精密機械(杭州)有限公司(中国)、神鋼起重機(上海)有限公司(中国)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY SOUTHEAST ASIA CO., LTD.(タイ)
KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO., PTE. LTD.(シンガポール)
RICON PRIVATE LTD.(シンガポール)
PT. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO., LTD.(ベトナム)
KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD.(インド)
KOBELCO CRANES INDIA PVT. LTD.(インド)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY. LTD.(オーストラリア)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MIDDLE EAST & AFRICA FZCO.(U.A.E.)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.(米国)
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.(オランダ)
KOBELCO CRANES EUROPE LTD.(英国)

編集後記

事業地域の 皆さまとともに

コベルコ建機(株)
総務部CSR推進グループ

今回の「社会環境報告書2017」はグループ内外で働く多くの方々の声を集め、“人”をテーマに制作しました。トップメッセージでは、全世界の従業員の行動規範として2016年度より新たに掲げた『スピリット(SPIRIT)』を榎木社長が説明しています。世代、国、地域を超えて、グループ従業員一同、社会との関わりの中で、コベルコ建機グループだからできる、より価値ある活動を目指しています。

また、コベルコ建機グループが誇る高い環境性能の技術開発の裏側を知ってもらうため、ショベル・クレーンの要素開発担当者にインタビューを行い、今までとは異なる切り口で環境への取り組みを紹介しています。

これからも活動の輪を広げ、現在の活動を継続し深めていくことで、事業地域の皆さまとともに成長していく関係を目指していきます。

コベルコ建機株式会社

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社：〒141-8626 東京都品川区北品川五丁目5番15号(大崎プライトコア5F) ☎03-5789-2111

広島本社(広島事業所)：〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港二丁目2番1号 ☎082-943-5321

大久保事業所：〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740 ☎078-936-1331

大垣事業所：〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地7 ☎0584-80-0500

グローバルサイト <https://www.kobelcocm-global.com>

日本エリアサイト <https://www.kobelco-kenki.co.jp>



再生紙を使用しています

●報告書の対象に関して

- 【対象組織】 コベルコ建機株式会社および、グループ関連企業を対象としています。
- 【対象期間】 2016年4月1日～2017年3月31日(一部2017年4月1日以降の情報を含む)
- 【報告書発行】 2017年8月
-